

(宇多津町浜一番丁)

④ 道の駅をゆく ⑬

昔ながらの塩作り今も

瀬戸内の多島美や瀬戸大橋を一望できるロケーション、塩の町・宇多津を今に伝える復元塩田、恋人の聖地のモニュメント、子どもたちの歓声が絶えない遊具広場……。かつて日本一の規模を誇った186畝の塩田跡の北西端に位置する道の駅「恋人の聖地 うたづ臨海公園」は、さまざまな魅力が詰まった複合施設。

広さは5・6畝。約2千㎡の緑地がある。1989年にオープンし、2009年に現在の姿にリニューアルした。

町制90周年事業として復元されたのが塩田。約900平方メートルの入り浜式塩田とともに、かやぶき屋根の釜屋を整備、晴天時には職人が引き込んだ海水を砂にまくなどして昔ながらの技法で天然塩を作っている。

天然塩は年間約2トを生産。町特産品の塩キャラメルや塩あめなどに活用しており、10月にオープンした

近くの複合型商業施設の映画館では、この塩を使ったポップコーンを来年1月末までの期間限定で販売している。

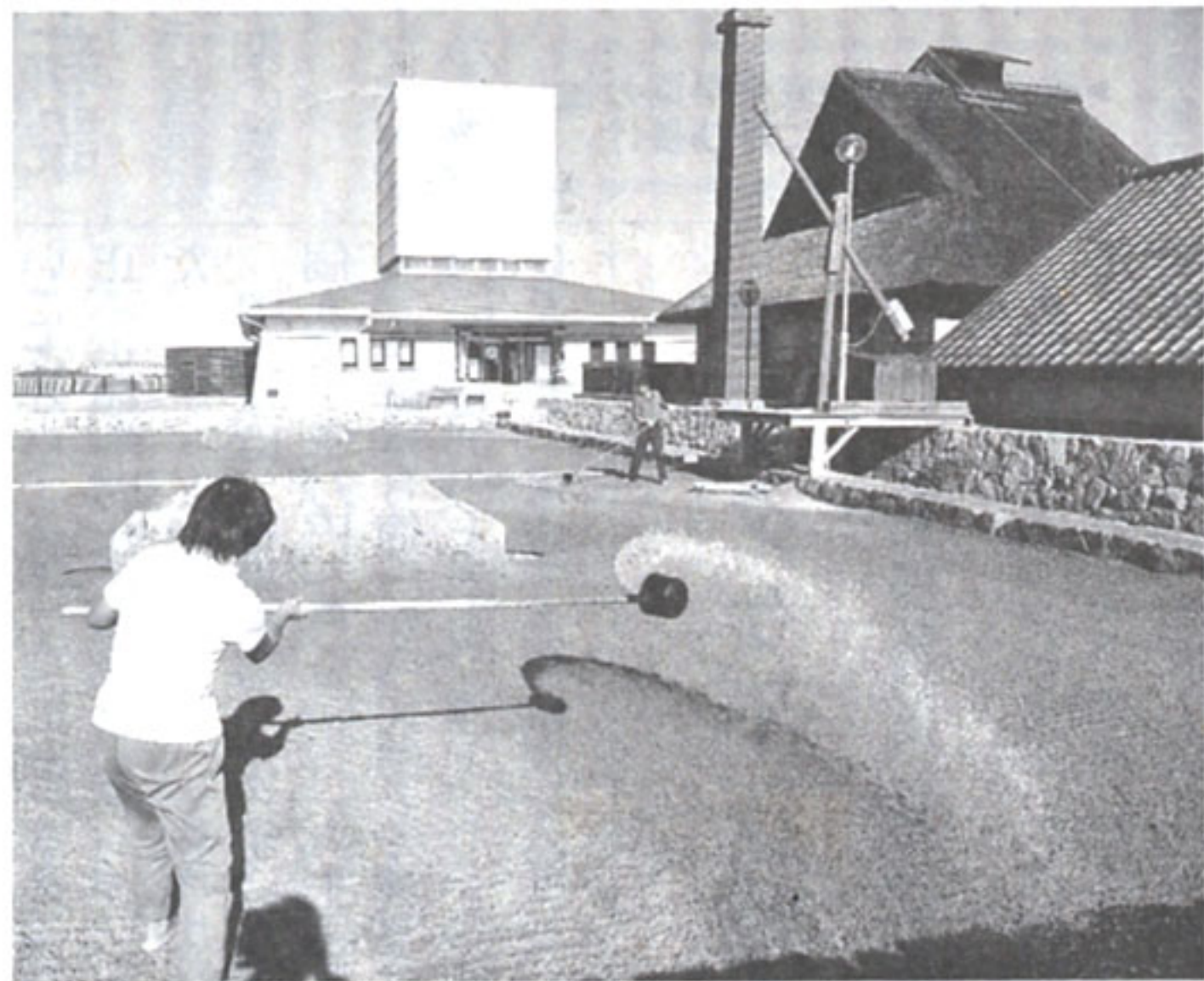
塩田に隣接するうたづ海ホテルは、カフェやFMスタジオなどを備えた情報発信基地。特産品の販売コーナーのほか、塩について学べるタッチパネルや映像上映もあり、復元塩田と併せ

て小中学生の体験学習の場にもなっている。

恋人の聖地に認定されたのは06年。県内屈指のデートスポットで、モニュメント横には約1千個の「愛の鍵」が入ったカプセルが埋められている。カップルのほか、結婚式の前撮りで訪れる人も多いという。イベントも多彩。海に面した利点を生かしたアロハ

ナイトは夏の恒例行事。クリスマスやバレンタインデーもコンサートなどで盛り上げる。年間来場者数は約33万人。遊具広場では親子連れの笑顔があふれ、緑地内の遊歩道は朝夕のジョギングや散歩コースとして親しまれている。

公園を運営・管理する町振興財団の井元俊夫事業部長(69)は「ここは主要幹線道沿いにならない道の駅。立ち寄ってもらえるようにいろいろ仕掛けて、にぎわいづくりにつなげたい」と意気込んでいる。



塩の町・宇多津を今に伝える復元塩田。昔ながらの技法で塩が作られている＝宇多津町浜一番丁



【メモ】高松自動車道坂出ICから車で約10分。JR宇多津駅から徒歩で約15分。駐車場は約250台。問い合わせはうたづ海ホテル(月曜休館)へ0877(49)0860。

